

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672900133
法人名	社会福祉法人九十九会
事業所名	グループホーム秋光園
所在地	鹿児島県日置市東市来町360-1 (電話) 099-274-3770
自己評価作成日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム秋光園はJR東市来駅と湯之元駅の間地点に位置し、国道3号線から車で5分程度にあり、交通の面で恵まれております。また団地内の高台に位置し、日当たりも良好で静かな環境です。A棟B棟とも、周囲に小さな花壇や畑があり、入居者と一緒に園芸を楽しんでいます。各居室にはトイレと洗面台があり、プライバシーが保たれています。食事メニューは地元の魚や野菜を中心に、GH職員がたてて季節を感じられるよう配慮しています。隔月の運営推進委員会で、自治会長に園の状況を報告し、それがきっかけで杉之迫自治会と法人全体で災害時の連携協定を結んでいます。夜間の火災の際、近く住民らが入居者の安全確保に協力し、年に数回、防災訓練を実施しています。園のそばにはグラウンドもあり、散歩を楽しんだり、地元の方のグラウンドゴルフ練習を見学したり、2ユニット協力してピクニックや合同喫茶を実施しています。また、入所者の要望に応じて対応できるように、日勤帯は可能な限り職員4名を配置し、個別に買物や外食などこまめに外出しています。特別養護老人ホームも敷地内にあることから、特養やデイサービスの慰問や行事を見学したりと入所者に喜ばれています。ご家族も、面会、外出、受診など職員と連携しながら、入所者を支えています。看護師、介護士が連携して健康管理につとめ、安心して園で生活できるよう支援しています。一人ひとりのペースや生活暦を大事にし、職員と入所者が笑顔で過ごせる毎日を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の高台に位置するホームは、団地が出来た時にどこよりも先にこの住宅地に法人の施設を建築する事を予定していたので、団地住居者の施設に関する理解が得られ、協力体制も出来ている。

自治会とは災害時の連携協定で、近隣の住民が利用者の安全の協力体制が確保されている。また法人の広いグラウンドでは地域住民がグラウンドゴルフを楽しんだり、夏休みには子供たちのラジオ体操の場としても提供している。地域と法人施設やホームとの交流や関係は密度の濃いものとなっている。

利用者は春はグラウンドの桜の下で花見をしたり、ピクニックやお茶飲みを楽しんだり、菜園を見たりと自由に思いのまま過ごしている。居室にはトイレと洗面台があり排泄も誘導されることなく自由である、部屋は自宅と同じ様に居心地よく過ごすように工夫されている。

管理者や職員はホームの理念「地域と関わりを持ちながら笑顔あふれるホームづくり」をケアに活かし、日々理念を振り返りながらサービスの質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	園内に理念を掲示し、会議等で理念を読み上げたりと、確認をしています。	理念は玄関・リビング・職員利用のトイレに掲示され会議時に唱和している。法人の理念とは別に7年前にグループホーム独自の理念を職員と共に作った。常に理念に立ち返りケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に展示物を出したり、地元の物産館などで買物等の交流を実施しています。	自治会に加入し文化祭には長年ちぎり絵の出品参加している。学生の職場体験・サマーボランティアの受け入れや、運動会の見学にも行っている。外出時の外部との交流の記録にと「地域関わり支援日誌」を作成し、日常的な交流を記録している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人全体で連携し、花火大会や文化祭、防災訓練等で、地域と交流しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で実施し、他事業所、市の担当者、自治会長などと意見交換を実施しています。また日頃「新聞記事」など関係した内容を皆で共有しています。	会議は2か月毎の定期会議で行政・他事業所・自治会長・民生委員・家族が参加し、行事報告・状況報告等を行い参加者からの意見交換の場になり運営に反映している。2ユニットだが家族の参加が少なく今後の参加促進が課題である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、法人の事務所、支援センターと通じてアドバイスを頂いています	職員は利用者の相談・苦情を聞き連絡ノートに記入し行政に繋げ情報の共有に努めている。日頃から連絡を取り合っているが、ホームではなく法人事務所が行う事が多いので、今後は直接の協力関係を築くよう取り組んでいく予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回の身体拘束委員会を実施。園長、副園長に参加いただき、園の状況を報告、身体拘束ゼロを目標とし、努力しています。	年3回運営推進会議の後に身体拘束委員会を実施し、状況報告や事例報告での検討会で十分な理解への取り組みと反映がなされている。言葉による拘束ではその場での注意のほか、会議でも議論している。内部研修や外部の研修にも参加し利用者の思いを大切にされたケアの実践に努めている。利用者が外出しそうな時には、一緒に付き添い見守り安全面にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A B 合同会議や法人全体で研修を実施し「虐待防止」を再認識し、職員間でも声かけ等に意識を向けて実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修会やGH合同会議で学んで意識を高めています。関連した新聞記事等を掲示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明をし、必ず書面に残しています。その後も入所者の状況に応じて個別に確認事項があった場合も書面に残して記録します。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回以上の担当者会議や年2回の家族会等で、ご家族の意見や要望を聴いています。また面会時も何か要望、相談はないか管理者が家族と面談しています。	日常の面会時や電話で意見要望があれば聞いている。年2回の家族会でスタッフ紹介の写真作成の要望はその一例である。意見要望があれば職員で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見交換をしたり、入所者の状況が変化した場合はそのつど、全体把握のため、職員の意見を取り入れています。	ケアの中でも意見要望があると聞く体制がある。月1回の会議ではケアに対する意見が多く発言され加湿器や扇風機設置の要望があり、管理者は意見を受け入れ法人へ提案として取り上げてもらっている。職員の意見提案を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見も取り入れつつ各自のライフスタイルに合った勤務時間を取り入れています。事務所にも要望を入れて、処遇改善に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内や、外部の研修に積極的に参加を促し、各自のスキルアップに努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協議会やケアマネ協議会に加入しており、そのつど研修や会議等に参加し交流を深めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に担当ケアマネやご家族から情報収集を行い、本人にも面談して、入所したその日から安心して過ごせるよう配慮しています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前の情報収集に加えて、入所当日に担当者会議を行います。また、入所してからの状況も要望に応じてこまめにお知らせしています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>GHで出来る事、出来ない事を明確に説明し、本人にとって大切なことを実施できるよう話し合います。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活暦や本人の要望を考慮し、簡単な調理や衣服整理などをお願いし、職員が入所者に「ありがとう」と言える環境を作ります。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などはまず家族に報告して相談。外出や外泊も可能な限りお願いして、楽しんでいただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会や帰宅の願いをし、地域とのつながりが途切れないよう配慮しています。	家族の支援の下、病院受診の帰りに墓参りに行ったり、知人を同行しての面会をしてもらったり、また送迎付きで馴染みの美容室に連れていく事もある。馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流が難しい場合は職員が間に入り、会話をうながしたり、軽作業を実施したりしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所後も入所者の状況をきいたり、ご家族の相談にのっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や職員全員から聞き取りをし、状況変化に応じてケアの方法を検討しています。	思いや意向の伝えられない方は編み物や塗り絵など個別に活動してもらい、その様子を見ながら意思疎通を図るよう努めている、また家族からの情報も共有している。それでも困難な場合には本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報のみならず、面会時にご家族や友人等にその人となりをお願いします、本人にも折に触れ会話をし、記録します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まりきったケアに陥らないよう、その都度、本人の状態を把握する努力をします。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃よりスタッフ間で積極的に話をしたり連絡帳等を活用し互いに情報収集、交換を行っています。ご家族へは面会時に状態報告、要望を聴き、担当者会議実施前に情報収集しています。	本人・家族から希望や意向を聞き、主治医からの意見を反映させた介護計画を作成している。利用者ごとに担当者を設け、連絡ノートで情報収集を行い細かな計画となるように努めている。現状に即した計画になっているが、見直しがあればその都度話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別台帳に細かく記録し、情報を共有しています。また、申し送り等の情報も職員で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画された外出以外でも、受診はもとより、帰宅や墓参りなど、家族と協力しながら可能な限り実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園の前のグラウンドで地域の方が利用しているので、機会があれば、見学や話しかけをしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の要望にあわせて主治医をきめています。訪問診療も実施しており、ほとんどの入居者が利用しています。	入所時は本人や家族の希望するかかりつけ医となっているが、現状は利用者全員協力医療機関がかかりつけ医となっている。月1回の定期訪問診療や認知症専門医の往診もある。歯科・皮膚科などの他科受診は家族支援で定期的を受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ささいな変化でも看護師に報告相談し、入所者の健康管理に務めます。またバイタル測定の実施など、介護職員も協力します。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は家族やケースワーカーと連絡をとり、退院後の生活について相談をします。また退院時は担当者会議を開き、要望を聴いたり、リスク確認をします。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に説明をします。また家族会等でも必ず、再確認します。入所者の状態変化に応じて、担当者会議を開き、ご家族が不安に陥らないよう支援します。</p>	<p>看取りは今までしていないが、今後体制を整えるよう取り組んでいる。入所時に「重度化や終末期に向けた指針」の説明はあるが、さらに詳細な「急変時の延命治療の方針」「看取りに関する意思の確認書・同意書」など文書での明文化も検討中である。家族が不安にならない支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故や急変時のマニュアルを作成し、会議等で確認し、研修を実施しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>会議の際に非常ベルや消火器の確認をしており、法人全体での防災訓練に定期的に参加しています。</p>	<p>年2回法人全体での訓練がある。日曜日の訓練には地域から20名程の方が参加され非常ベルが鳴る・赤色灯が回るなど本格的な訓練がなされている。不審者対策もセンサーを付けるなど対策が出来ている。備蓄の確保も出来ているが、地域の方の災害時の役目がまだ明確ではない自治会と協力体制について検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者に対して、必ず同意を得て介助を実施しています。各居室にトイレや洗面台がありプライバシーが保たれています。	利用者の名前は「さん」付けし、利用者の人格を尊重し、日々のケアに際してプライドを損ねるような言葉かけや対応のないよう実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニュー選びや更衣など、ささいなことでも、選択の自由を尊重し、自己決定する場面をつくります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤帯に職員数に余裕を持たせ、外出、帰宅などの要望になるべく沿えるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各居室に洗面台があり、整髪や化粧など、個人の好みで実施できるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「台拭き」や「もやしの根取り」など、その方の能力に応じ、簡単な作業をお願いしています。	出来る方には台拭きや野菜の皮むきの手伝いをもらっている。グラウンドで手作り弁当で花見をしたり、ソーメン流しもする。誕生日には近所のケーキ屋から配達してもらっている。外食も可能な限り家族と共に支援している。食事を楽しめる工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜や地元の鮮魚店利用により、在宅に近い状態で食事を楽しめるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけや介助により、口腔の清潔を促しており、歯科受診も家族にお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各居室にトイレがあり、なるべくご自分で排泄できるよう援助し、排泄状態を記録して失禁を減らすよう配慮しています。	各居室のトイレはベッドの位置を考慮して使い易い工夫がなされている。排泄チェック表も活用しながら日々のケアで可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら、適切な排泄ができるよう薬の調整をしています。また食物繊維や乳酸菌摂取に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週に3回入浴を実施しています。職員と1対1で対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう配慮しています。	週3回が基本ではあるが、本人の体調やリズムに合わせて入浴をされている。家族が温泉に連れて行かれる方もいる。入浴剤も使用するなど個々に応じた支援で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に応じ、寝具や温度調整に気をくばり、安眠に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、体調の変化により服薬の変化があった場合は家族や職員全員に説明しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活暦と照らし合わせ、簡単な手芸、園芸、歌、塗り絵など、職員が支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力し、少しでも園の外にでる機会を増やすよう配慮しています。暑い時期や雨の日は特養やB棟への散歩を促しています。	法人の広い敷地内の散歩やゴミ捨てに職員と一緒にいくこともある。日常の買い物と一緒に車でドライブがてら同行したり、近隣の散歩は日課になっている。家族に協力をもらい外泊をお願いするなど家族や地域の協力を得ながら外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、A棟の入所者は自分で金銭管理をしている方はいません。お小遣いを預かり、ご家族に確認してもらっています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>身元引受人の許可を得て、いろいろな方に気軽に電話をかけてもらうよう配慮しています。年賀状等も投函に関しては支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室やトイレはそれぞれの好みの配置を実施しています。食堂など共有の場所は季節の飾りつけを入所者と作成して楽しんでいます。</p>	<p>玄関ホールから左右に居室があり、長い廊下にはソファや長椅子を置き自由に過ごす様子が伺える。居室から見える菜園には金柑やミカン等植えられ季節を感じられる。リビングからは広いグラウンドが目当たりで見え春には桜が見える。オープンキッチンから利用者の様子がわかり、壁にはその年の干支のちぎり絵や押し花の作品が飾られ居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や窓際にソファを置き、気の合った方同士、ひなたぼっこや談話を楽しめるよう配慮しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していたタンスや家族やご自分の写真を飾り、明るくて親しみのもてる空間づくりを目指しています。</p>	<p>ホームの設置品以外には、テレビ・机・ラジオ・携帯電話など使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっている。腰高の窓からは広いランドが見え季節の移り変わりを感じる事が出来る。新聞を毎日読む方、編み物をされる方など本人が自宅同様居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室が広いので、ベッド位置は本人の歩行状態によって変えています。手摺りやセンサーマットを使用し、安全に努めています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない